

第4回桐生市総合戦略推進委員会ワーキンググループ 議事録

○日 時 令和4年3月7日（月）午後1時30分～午後3時50分

○場 所 桐生市保健福祉会館 2階 会議室

○出席者 12名

【委員】9名

委員長：桐生市総合計画審議会 副会長職経験者 新居 理恵

副委員長：社会福祉法人桐生市社会福祉協議会 常務理事 八町 敏明

委員：一般社団法人きりゅう市民活動推進ネットワーク 理事長 近藤 圭子

NPO法人キッズバレイ 代表理事 星野 麻実

移住者 川堀 奈知

移住者 山本 祐司

地域おこし協力隊 小林 由香

公募市民 山口 典利

公募市民 清水 哲

<欠席者>

一般社団法人桐生青年会議所 理事長 深澤 佑太

移住者 和崎 拓人

【桐生市】3名

桐生市共創企画部企画課長 西條 敦史

桐生市共創企画部企画課企画戦略担当係長 金子 貴征

桐生市共創企画部企画課企画戦略担当 伊藤 美和子

○報道関係 桐生タイムス 1名

○会議内容

1 開 会 [開始：午後1時30分]

- ・会場である桐生市保健福祉会館の中にある屋内遊戯場キノピーランド等を見学。
- ・事務局から、過半数の委員の出席により会議が成立することを報告。

2 挨 拶

- ・新居委員長から挨拶。

3 議 題

(1) 人口減少対策のあり方について

- ・資料1に基づき事務局から説明。
- ・意見、質疑応答は以下のとおり。

委員長	今回は、「6 観光」に関する意見から伺っていきたいと思うが、既に出た意見を深掘りするのもいいし、新たに意見があればお願いしたい。いかがであるか。 なお、委員から、桐生まちなか地図と桐生市観光総合ガイドブックをご持参いただいた。
-----	--

委員	桐生まちなか地図は、桐生商工会議所のファッションタウン推進協議会が作成したもので、20年くらい使用しているが、2年ごとくらいに更新している。参考にこういうものがあるということで持って来た。
委員長	桐生はイベントがすごく多いと思う。毎週どこかで誰かがイベントを立ち上げてやってくださっているという印象はあるが、なかなか広く周知しきれてないところもあるのかなと思うので、どうしたら解決できるのかなと思うところであるが、何かご意見はあるか。
委員	第1回の意見に「特定の日を設けて」とあるが、第1土曜日に買場紗綾市、天満宮古民具骨董市、桐生楽市がだいぶ前から固定である。これに合わせてイベントをする所も多い。そっちに行くと他のイベントに行けない場合もあるので、少し分散することもあるが、やはり三大市を目的に第1土曜日に来る人も多く、駅の中でもそういった声をよく聞く。この日だけではなく、もう1日くらいあってもいいかとも思う。三大市は本町一丁目、二丁目メインなので、ファッションウィークくらいしかまとまったものは桐生では今のところないかもしれない。ファッションウィークは委員が委員長だと思うが、イベントの様子はいかがか。
委員	一昨年度と昨年度、実行委員長という形で引き継ぎ、今ファッションウィークの担当をしている。ファッションウィークは、25年やっているイベントで、桐生の色々な日常を同時多発で色々な所で見られる機会を作ろうと先輩方が考えられて始められたものである。イベントの集合ではあるが、産業であったり文化であったり桐生が盛り上がっている様子を、いつ、どこで見られるか分からないという人にも、ファッションウィークの時には開放して、皆さんに見て楽しんでいただこうと、同時多発をキャッチフレーズに開催している。例年だと糸屋通りいらっしやいませがあったり、クラシックカーフェスティバルがあたりと、たくさんの方が来るイベントもこのタイミングで実施しており、有隣館など様々な場所を活用して桐生の事業者が見て体験して楽しめる催しをしている。今年度はコロナ禍ということもあり、さらに桐生のディープな楽しいところを見てもらいたいということもあり、オープンファクトリーという形で、工場での見学や体験をやっていると呼びかけて、商工会議所のファッションタウンの委員長に音頭をとっていただき、工場を見ていただくようなコンテンツを増やし始めたところである。来年度についても、ディープでおもしろいけど普段は入れないところを更に見せていくことができればと話している。ただ、以前から産業観光という文脈で事業者と話があるが、あまり上手くいった感覚を事業者としては持っていないようなので、産業観光という文脈というよりは、桐生を好きな人が桐生を楽しんで、一緒にまちをつくり、まちを発展させていくような、そういう形で関わると、ものづくりされている人にとってもいいし、そういったことが好きな人にとっても、その人と丁寧にコミュニケーションがとれるというのはいいのかなというのが、やっていて思うところである。

委員長	この後も出てくるが、関係人口を増やすという部分でも、1つ役割を果たしていると思うが、これに関して、行政に何を求めるかというところについて、いかがか。
委員	ファッションウィークに関しては共催という形で、立ち上げの頃から会場手配や情報発信を一緒にやっている。リピーターが多く、いつも来てくださる人は大切にしたい一方で、毎年課題に上がるのは、この取組を広く多くの人に知っていただくというところで、今だと東武鉄道の駅にチラシを置かせていただいたり、予算の可能な範囲で折り込みをしたりしているが、今後は SNS を使って、若い世代に魅力的な発信をしていくと同時に、よりこまめに情報発信していくことが大事と考える。行政に求めることに関しては、先ほど言ったとおり、既に周知や会場手配をやってもらっており、あとはどう盛り上げていくかだと思う。なお、ファッションタウンからファッションウィークの広報費として毎年 50 万円予算が出ているが、これは、桐生市から商工会議所にファッションタウンの活動費として出ているものである。
委員長	桐生は桐生まつり、ファッションウィーク、買場紗綾市、骨董市など核になる大きなイベントがいくつかある中で、そこに付随して広げていく、周知していく、小さなイベントを巻き込んでいく、そういうことも話を聞く中で大事だと思った。 表現に語弊があるかもしれないが、個人的に、桐生まつりが体育祭でファッションウィークが文化祭のイメージがあり、その両方が 1 年の間にあるのは大きな魅力だと思う。それぞれに関心のある人にアピールすることが大事だが、やはりこの会議の最初から言われているように発信が重要であると思う。
委員	シルクル桐生ができて、ハブ、情報発信の場になっていると思うが、桐生市の人自分たち独自でイベントをしている人が多く、なかなか情報がまとまりにくいというのはある。広く発信するとしたら、情報の窓口であるシルクル桐生が役割を担うと思うが、そこに情報が集まらないと発信ができないので、その仕組みだけどうするか、情報はどこにまとまってどういうふうに出していくか。なかなか市民に、逐一報告してほしいと言っても難しいところがあるので、例えば後援をした桐生市からシルクル桐生に情報を流すとか、情報が入ったらまとめる場所があれば、もう少し色々な意味の情報発信ができると思う。委員はいかがか。
委員	シルクル桐生が観光物産協会の運営として始まったのは今年度からなので、やっと 1 年経つところである。本町五丁目のすごく良い場所にシルクル桐生ができて、駅から近く、目の前に広い駐車場もあり、銀行に出入りする人も多いので、皆が立ち寄りやすい場所でもあるが、現状、市民があまりいらっやらない。ここは何だろうと思っている市民がいまだに多く、市民への周知がまだ上手くできていないこともあると思う。シルクル桐生がどうしてできたのかというところと、担っている役割をもう一度きちんと広報などで発信してもらえると、皆の意識がシルクル桐生に集まるのかと思う。今来る人は観光客がほとんどで、市民も

	立ち寄ってはくれるが、「何だろうここは」といった様子であり、外から様子を伺っている人も多い印象がある。
委員	シルクル桐生は、第2期桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略の主要な施策として含まれている。行政も力を入れていくところであると思うので、地域おこし協力隊にも頑張ってもらい、情報発信していけるといいかと思う。
委員	シルクル桐生は観光物産協会の事務局の他に桐生市の観光交流課の職員も常駐しているが、連携が上手くとれないことも多く、同じスペースにいるが、その中で情報共有ができていないことが問題だと思う。観光交流課は市役所本庁にあり、シルクルは出張所のような形であるわけだが、本庁とシルクルの観光交流課職員同士の間でも情報共有が上手くできていない場面が時々見られる。もちろん、協会と市でこれから色々連携していかなければならないが、場所が離れてしまうと、なかなか情報共有が難しいところもあるようで、色々な意味で発信することが大事である。 また、イベントの情報を私たちが発信したいが、なかなか全てを把握できず、インスタグラムで見つけて今日こんなことをやっているんだとか、後手後手の対応になってしまうことがある。もう少し色々な所から上手く情報が入るようになればいいと思う。それには人と人の信頼関係やつながりもあると思うので、そういったところをもう少し強めていきたいと思う。
委員長	色々な課題が出てきた気がする。シルクル桐生のように情報発信できる場所があるのに情報が集まらないのはすごくもったいない。今までこの会議で情報発信の話をしてきたが、情報をどう集めるかといったところも色々考えていかなければいけない。その中で行政ができることとして、行政の施設を借りたいと申し込みがあった時に情報をつなぐとか、シルクホールなどの情報も入れるとか、そういう仕組みが1つあるとまた違ってくる。もちろん、色々な人が色々な手段で発信するが、発信する窓口が増えることは大きいと思う。
委員	情報発信の話とは違うが、ファッションウィークについて友人と話している時に、「ファッションと関係ないのでは」と素朴な意見をもらったことがある。1つ1つのイベントは楽しくて面白いのだが、ファッションらしいファッション、確かに桐生市はファッションデザイナーにしても有名な人たちが出ていたりするが、そういう人たちを巻き込んで、目玉として頑張ってもらえれば、本当に注目を集めて、ファッションウィークの核となると思うのだが、ファッションウィークの核となるのは、クラシックカーフェスティバルなどであり、ファッションというより文化祭であると思う。もう少しきちんとコンセプトを打ち出していないと、何だか分からない。一昨日、足利市を通ったら、刀関係のイベントをしており、若い女性がたくさんまちを歩いていた。コンセプトがしっかりしており、まち全体でやっているから、色々行ったりできる。桐生はイベントが多いが、やりたい人たちがそれぞれでやっているの、今月はこのテーマというようなものを決めて皆でやるようにすると、まち全体にもっと、それぞれのテーマのファン

	が集まってくれると思う。情報発信も大切だけど、イベントの企画・コンセプトをもう少しはっきりしながら整理した方が分かりやすいと感じた。
委員長	私たちは、ファッションウィークという名称に慣れているが、言われてみればそのとおりである。もしかしたら、最初はそうだったのかもしれない。
委員	たぶんハイテクとファッションのまちからそうなったのかなと。
委員	私が事務局をやり始めたのは8年くらい前だが、その頃から言い続けていて、少しずつの工夫はしている。最近、ゴールデンウィークと同じ感覚で、イベント名ではなく期間の名称であると言っている。出店者も何に出店しているか分からない。そもそも参加費は、チラシ代などの広報費としていただいている、それぞれのイベントに実行委員会が口を出すことはしていない。10日間のイベントのPRを皆でやっていきましょうという形で手をとっている。期間が同じということで税務相談の出店希望もあったりして、工夫としては、協賛イベントという形で、ファッションっぽくはないけどこの期間にやっているイベントと、メインの有隣館の事業とカテゴリーを分けてみたりしている。10月にテキスタイルマンスという形で、ものづくりというかファッション関連のことをやりましょうという動きもあり、10月からファッションウィークも始まるので、上手くコラボレーションしつつやっていきたい。また、出店エリアとして有隣館が人気であるが、参加する団体が増えるほど、1団体当たりの場所は限られてくるので、有隣館でやっているイベントがファッションウィークということではなく、その期間に様々な場所でイベントをして皆で発信している体をとるのか、あるいは、四半世紀が過ぎたので、もう一度コンセプトを見直して、桐生市、観光物産協会、シルクル桐生、商工会議所などに入っただき、改めてこの秋の催しを何と言っでどのようにしつらえるのか、考える場があるといいと思う。実行委員会だけで何かできるかというところではないので、委員長として提案はするのだが、先輩たちから実行委員会は何か主催してはいけないとお叱りを受けるので、基本的には事業者さん主催のイベントの集合体となっている。秋の催しを桐生として何と位置付けてどういうふうにやっていこうかという会議があるとすごく有効であると思う。
委員	私も以前からファッションウィークというネーミングが少し違うかなと思っていた。私も商工会議所に入っているので、3年くらい前に名称を変えた方がいいと提案したことがある。そうしたら、長くやっていて、最初に作った人たちがまだいるので、なかなか変えられないとのことだった。現実的には違うと思うので、ワーキンググループで意見として、商工会議所に直接出してもらってもいいと思う。
委員長	委員の言った、ファッションウィークはゴールデンウィークと同じ概念というのは目から鱗だった。ファッションウィークはイベント名として周知されすぎているので、皆が実態との違和感を抱いているのではないかなと思う。

委員	ファッションウィークの成り立ちについて、まずは確認した方がいい。おしゃれなまち、ファッションのまち桐生ということでイベントをやって、桐生の織物を売ったりしていたというのが最初は絶対あったと思う。いつから変わったか分からないが、名称の由来を聞いた上で、今はこういうふうに変ったという形に持っていけないと、最初に作った人たちがいるので、時代の流れの中で内容が変わってきたので名前を変えたいというような形でないと、商工会議所でも桐生はファッションと思っている人もたくさんいると思うので、おかしいというのではなく、今の時代に合った名称に変更していくよう提案していけたらいいと思う。
委員	私が商工会議所から聞いている限りでは、桐生のまちがファッションだというコンセプトだったらいい。桐生のまち全体をファッションとして、洋服のファッションはその一部であるらしい。なぜそのようなことを聞いたかという、桐生のまちを京都のように、建物、住宅を造るときに何か共通のものをまち並みにとりいれたらいいかがかといったら、それがファッションウィークなのだと言われた。まち全体をファッションと考えているので、こういう名称になったらいい。
事務局 (企画課長)	商工会議所の会頭が総合戦略推進委員会の委員であるため、この後、会議結果を上げていくときには、会頭にいずれかの形でお伝えするようにいたしたい。ファッションウィークも、難しい課題だと思うが、このまま議論しても実施主体ではないということと、人口減少に直に結びつかないところもあるので、一旦この議論はここまでということではいかがか。
委員長	皆言いたいことはたくさんあると思うが、その思いを総合戦略推進委員会で上手く伝えられたらいいということで、この件は一旦預かる。こういった核となる観光資源、イベントがあるので、情報を集め、上手く情報発信するというのが1つ大事かと思うが、行政としてはいかがか。
事務局 (企画課長)	資料の「6 観光」の①の中で様々なご意見がある中で、情報の集め方や発信の仕方と対で考える必要があり、「3 情報発信」の中でまとめて考えていくのがいいと思う。特定の日を設けて1つの日にイベントを集中した方がいいという意見については、今のファッションウィークと同じように、まとめることで目的がぼけてしまい、難しいところもある。したがって、①としては、情報をいかに集めて、いかに発信していくかというところを今後検討していく、形を考えていくところになるかと考えている。
委員長	その方向で考えて、上手くつなげていただくことをお願いしたい。
委員	シルクル桐生の件で、現状として、群馬銀行桐生支店を利用する人が車を停められないような状況が続いている。このままだと、群馬銀行の駐車場が使えなくなってしまうのではないかと心配している。桐生市がシルクル桐生に予算をとって、力を入れているが、力を入れれば入れるほど、そういう状況が出てくると思う。おそらく最初はこんなに人が来ることは想定していなくて始まったのだと思

	うが、あれだけ駐車場を利用する人が出てくるとすると、すぐにできるものではなく、2～3 年先の話になってくと思うが、今のうちから駐車場の整備計画を作った方がいいと思う。
委員	委員のおっしゃるとおりで、あの並びに新しいお店がどんどんできて、人がたくさん集まって来て盛り上がっているのはとても良いことだと思うが、結局それが群馬銀行の業務にかなり支障を来す状況になっており、実際、何件かシルクルでも苦情をいただいている。そもそも群馬銀行桐生支店ができた時に、桐生南支店と統合して、最近では相生支店も統合したので、年金の支給日などは今まで以上に車が混み合っている。駐車場はあれ以上広げることができないので仕方ないが、周辺の店がメインの駐車場として使っているところが少し問題である。 また、青年の家の所に桐生市観光交流課が管理する観光駐車場があるが、利用は基本的に観光バスが中心である。桐生市には乗用車を無料で停められる所がなく、観光客にはいつも聞かれるが、観光駐車場は案内できないし、シルクルの前の駐車場が土日は空いているので停めていただけるが、お金がかかってしまう。私は、足利市によく行くが、足利市には観光用の無料駐車場が結構たくさんある。桐生市内にも無料駐車場があればいいと個人的にはずっと思っている。
委員長	ご指摘のとおりであると思う。群馬銀行桐生支店は、支店内支店が3店あるという驚きの状況であり、元々相生支店は結構使われていて、ATMの前に人が並んでいたのが閉まってしまう、元々群馬銀行の桐生市内のATMが少ない中でのあの状態なので。この間、交差点で信号2回待つくらいの渋滞があった。今後、群馬銀行から何か話があった時にどう対応するか考えておいた方がいいかと思う。すごく大事なことだと思う。 他はいかがか。 (意見なし) それでは続いて、「7 子育て支援」について、「①桐生市で子どもを産むということも大事だが、子どもがいる人を呼ぶことも大切であり、例えばシングルマザーを大切にすまちということでシングルマザーを呼び込み、そこで桐生市の独身の男性と結婚して子どもを産んでもらうということも即効性のある施策だと思う。」と第1回でご意見いただいたが、今まで話してきた中で、外から人を呼び込もうということは、子育て世帯もあるし、ご夫婦、カップル、もちろんシングルもありかと思うが、いかがか。
事務局 (企画課長)	第1回の意見の中では、シングルマザーということだが、桐生市では、どのような人でも子育てしやすいということをコンセプトに色々な事業を展開しているところである。その中でも特に、虐待や養育に問題のあるご家庭をなるべくなくすことに注力して対策を立てているところである。国では、虐待防止、養育に問題のある子どもの支援、発達支援などを子育て世代包括支援センターや子ども家庭総合支援拠点を中心に支援していくことを提示している中、桐生市は東毛地区でいち早く整備をしているが、なかなか目につかないのが事実である。市の方

	針としては、多くの他の市町村で実施している独自の無償化やプレゼントということではなく、例えば、特に初産の場合は産後うつになることが多く、主な原因の1つが母乳であるが、桐生市は助産師のいる母乳外来に通ったら補助金を出すなどして産後うつを止める支援を行うなど、皆さんが子育てしやすい環境を作る方向性で子育て支援を行っている現状があるので、そのことをまずご理解いただきたい。
委員長	昨今、虐待のニュースをよく目にするが、どうしてもそういう施策は大っぴらにできない部分もあると思う。虐待をしてしまう親は、もちろんその行為自体は許されるわけではないが、親自身を助けが必要な人と捉え、助けが必要な人をいち早く見つけ、手を差し伸べる施策が必要である。虐待防止というと、パニッシュメントという印象を受けがちだが、そうではなく子どもを救うために親を救うという部分がすごく強いのかなと思う。 委員はこういう部分に携わっていただいている中で、いかがか。
委員	子育てが心配な家庭を見守りたい時も、家に行くのはハードルが高く、保健師が訪問することもあると思うが、入れてくれない状況もあると思う。先ほどキノピーランドをご覧いただいたが、ここに遊びに来るついでに、私たちキノピーランドのスタッフが、子どもの変化、痩せてきてないか、傷がついてないか、何となく見守って心配だったら、子育て支援センターを通じて保健師さんにつなげるなど、遊び場ではあるが見守りの機能が働いているのかなと思う。 また、桐生市でNP（ノーバディーズ・パーフェクト）プログラムという産後のお母さんたちの友達作りや子育ての悩みをお母さん同士で話せる場を設けているが、保健師が検診などで、例えば外から移り住んできて、お友達がまだいないお母さんとか、双子の親とか、お父さんが夜勤続きのお仕事の人とか、ちょっと心配そうな人へ声がけしている。もちろん自分からも参加できるが、そういうコミュニティにつなぐことが、非営利活動のNPO法人と行政とで連携しながらできているのかなと思う。 あともう1点、キノピーランドでは、週末にキッズバレイが受けている電話相談が1回線あり、平日は保健師が受けている子どもすこやかホットラインというのがある。さらに、県の事業で、女性向けの電話相談をキッズバレイで受けている。その中でもDVの相談は一刻を争い、傾聴しているだけでは駄目なので、桐生市にはNPO法人いぶきというシェルターをしている団体があるが、相談者をいぶきにつないで、何かあったらすぐに逃げられるように斡旋をしている。しかしながら、運営者もご高齢で後継者を探している状況であり、シェルターは夜中に呼び出されたり、警察に行ったりと過酷な面もあるので、キッズバレイとしても気軽に引き継ぐとなかなか言えないが、やはり、桐生市にシェルターがあるというのは、命を守るうえで本当に大切な場所だと思っているので、そういうところも何かしたいなと課題に思っている。シェルターを地域の中でどうやって維持させるか、また、今子どものシェルターもあるので、万が一の時に子どもの命をどうやって守るのかということも全員に関係があることだと思うので、何か検討できるといいのかなと思っている。

委員長	私も民生委員をしている中で、訪問することもあるが、間に合っていると言われてしまうこともあり、すごく敷居が高く、難しいと感じている。そのような中で、キノピーランドは、遊ばせること自体大切なことであるが、親御さんのストレスが溜まっているかもしれないところをいち早くガス抜きをさせてあげて、その先に進ませないようにするために、すごく大事な場所であると思う。表面はすごく楽しい場所であるし、そういう意味でもすごくいいなと思う。 困っている人にやさしいまちが、皆にとって優しいまちだと思う。虐待等に限らず、いつどこで自分が困るか分からないので、福祉にも限界はあるかもしれないが、そういう視点はすごく大事だと個人的に思っている中で、桐生市は子育て支援をそういう視点でやっていることは心強いと思う。
委員	電話相談はあるとのことだが、メール相談もあるのか。何かあった時に検索して調べることは多いと思うが、メール相談がもしあれば、電話をする勇気のない人が相談できるかもしれない。
委員	今、桐生市ではホットラインのメールがあり、キッズバレイでもキノピーランドのLINEアカウントを開設しており、相談を受け付けている。また、キッズバレイの電話相談でもLINE相談を受け付けている。ただ、LINE相談は結構難しく、やりとりの往復を求めている人にはレスポンスを早くしなければならぬが、まとまった質問が時間外に来てしまうと、24 時間対応しているわけではないので時間が空いてしまう。そうすると、返事が来なくなった時にどうしたのだろうとなってしまうことがある。難しいと思うが必要だと思っていてLINEは2つのアカウントを開設しており、電話相談の方が多いが、LINE相談も来ている。キッズバレイのアカウントだと月に10～20 件程度、キノピーランドも月に数件程度来ている。内容は何でもよくて、今晚のおかず何にしようでもいいから、友達にLINEする形でしてくださいと来場者には案内している。
委員	やはりそういった相談窓口があるという情報発信が大切かと思う。あるものを有効に使うというところをやってもらえればいいと思う。桐生市は遊園地があったり、遊ぶ所があったり、とても良い所だというPRをどんどんしていくと行ってみようという気持ちになる。
委員	今やられていることを否定する気持ちはないが、それが他市町村に比べて桐生は優れているのか。
事務局 (企画課長)	先に述べたように、今般、虐待や養育問題が叫ばれている中で、子ども家庭総合支援拠点を作るよう国から言われている。少なくとも東毛地区では桐生がいち早く設置した。どのような体制かという、簡単にいうと、今まで保健師が、例えば、6 か月、7 か月検診、1 歳半検診と子どもと直接接して子どもの状況を押さえており、これは母子保健という分野の情報だけであったが、その時の子どもの様子がおかしい、発達に問題がある、もしかしたら虐待、ネグレクトかといったところも含めて押さえる必要があるとして、今までは、虐待や養育問題の対応

	する部署と別の部署になってしまうところがあったが、これを一体的に考えるというのが子ども家庭総合支援拠点である。桐生市は、東毛地区で1番早く設置して、東部児童相談所が開催する、各自治体の課長級会議で設置事例を発表するなどしている。また、今まで他の市町村は健康づくりの部署の中に、成人保健と母子保健の2つの保健事業を1つの課にしている所が多かったが、桐生市では、子どもすこやか部を創設し、成人保健と母子保健を分けて、母子保健事業を虐待の対応をしている課である子育て相談課の管轄にした。保健師の力、得られる情報を養育支援、ネグレクト、虐待に最大限活かそうという体制を桐生市は組んでいて、今の子どもすこやか部は、子ども支援という体制においては、県内市町村の中でも進んでいると思っている。
委員	東毛地区の中ですごいのは良いことだが、なぜ質問したかという、人口減少対策の話をしているので、それが人口減少対策になるのかということが言いたかった。①の意見は私が提案したものだが、仕事の事情やDVなどそれぞれの理由で、桐生に來たいという人がいるとして、そういった時に桐生市として、桐生市ならより安全な生活ができると言えれば、人口減少対策の1つのポイントとしてアピールできると思う。シングルマザーという大きな括りも当然そうだが、その中でも色々な人がいて、桐生市が今実施していることが優れているのであれば、それに特化していき、どんどん広げていけば、桐生市に住みたいとなるのではないか。今までずっと話してきたのが、より良い桐生のまちづくりみたいなことがポイントになっていて、人口減少対策には具体的にどういうものかといったものになっていない気がする。話してきた内容で桐生市って良いよねと再認識はできたと思うが、それを外にアピールといっても、それを見たから聞いたからといって、こちらに引っ越してくるとなると、なかなか難しいところである。やはり何かに特化する必要がある。今、国内で人口が一番伸びている所は、つくばエクスプレス沿線であり、テレビで何回か番組もやっているが、あそこも桐生市と同じように子育てしやすい、出産しやすいというテーマがあって、それに特化して、補助金を出したり、人員を確保したりしている。そのくらいしないとなかなか人は集まってこないで、桐生市の人口減少のスピードを少しでも遅らせるとしたら、やはりそれくらい意気込んでやっていかないと難しいと思い、こういう提案をさせてもらった。
事務局 (企画課長)	委員のおっしゃるとおり、我々としても、安全な、どんな子ども幸せに暮らせるまちということで、色々取組んでいる。そのことは、人口減少対策の一助にもなるが、基本的には、桐生市に住む子どもたちの幸せを願ってということである。 人口減少対策ということで考えると、課題としては、情報をしっかり出せていないということが1つと、これまで窓口でお聞きしていると、そのようなベースがあっても、最後は働き口の問題など様々な理由で出て行ってしまう事例が多い。余談になるが、東京からこちらに引っ越してくる子育て世代だと、保育園、幼稚園、放課後児童クラブ6年生まで、ほぼ希望通りに受けられることに、移住相談者は大変驚いており、桐生市は良い所だと言っていた。

	今、外向けには0歳から12歳まで待機児童ゼロという言い方で、なるべく宣伝するようにしているが、やはりまだまだである。まず1つは、情報発信という部分なので、もう少し上手に、皆さんの知恵を拝借しながら進めていきたい。くわえて、住んでもらうためには何かが足りないと思うので、その何かが、子育ての部分でもっと、委員の言うとおりに付加価値を付けるとか、他の政策を足せばいいのかといったところが、我々としては悩ましいところではある。
委員長	最初に話していた虐待など、困っている人に手を差し伸べるというところで、すごく先進的だが、普通に何も困ってなければスルーで、単に良い施策になってしまうので、もちろんそれはすごく大事なんだけど、何もなく特に助けも必要ありませんよという子育て世帯への支援という部分が1つここでは肝になってくるのかなと思う。そのあたり、今でもやっていて、私達が住んでいれば当たり前だが、さっきみたいに待機児童ゼロというのはすごく外から見ると魅力的なのかなという部分の発信、前にも出たが、移住者向けのサイトやコンシェルジュみたいな場所を作るのであれば、ものの言い方がすごく大事になってくるのかなと思う。 移住してきて子育てをされている立場から、委員はいかがか。
委員	前回と今回の話を聞いていて、ターゲットが今ひとつはっきり見えないところがあるのではないかな。情報発信は、それを言ってしまうと何でもそれに集約してしまうので、やらないことを決めるというわけではないが、どういう人が桐生市にいてほしいのか、来てほしいのかが次回以降自ずと議論されていくのだと思う。そうするとこれはできないねとか、これはできるのではないかな、となるのかなという気がする。 私がちょうど桐生タイムスに書いたのだが、黒保根に移住した理由の1つは、定住促進住宅が分かりやすく子育てファミリーを欲しているというか、そもそもそういう条件なので、我々があれを見た時にここは我々みたいなファミリーを欲しているのだ、ウェルカムなのだというのが分かるので、すごく検討しやすいし、ほかにあまりそういうところが無くて、1個の候補に黒保根が挙がったところがあるので、結局はターゲットが誰なのか分からないと、全ての分野において何をやったところで刺さらない。よくある誰でもウェルカムは、結局誰にもアンウェルカムみたいなところがあって、私が桐生に呼ばれている、私が桐生に求められているというふうにするには、もう少し総花でないターゲットを、1つは難しくても2、3個になるかもしれないが、ペルソナ¹が明らかになると有効な施策が打てるのではないかなと思う。
委員長	次のその他に被ってくると思うが、たしかにターゲットを絞るのは大事だと思う。委員がファミリーというところで引っかかって来たということなので、今後、桐生がどういう人たちに来てほしいかということである。

¹ サービス・商品の典型的なユーザー像

事務局 (企画課長)	基本的には桐生もそうだが、どこも移住対策をしている所は、子育て世帯に来てもらいたいと考えているところがある。逆にいえば、前提として子育て世帯に来てほしいというのは、どこの自治体も同じ思いなので、当たり前前提で出来上がってしまっているところがあると思う。もっと鮮烈的に出した方がいいというのは、そういうところが足りないのだと思う。移住対策しているのはどこも同じだと思うが、そのことを言っていないのは何故かという、我々側からすれば当たり前前提になってしまっているところがあって、今のご意見はなるほどと思った。 また、人口減少の要因というところだが、桐生の人口減少の要因と考えられるのは、基幹産業である製造業の衰退による雇用機会の減少等により、若年層の市外流出が恒常的に続き、特に女性の人口は大学進学率の高まり等を背景に際立って減少を続けており、出生率の低下につながっていることであると人口ビジョンにある。この背景を基に、これを前提として対策を立てたいと考えており、最終的には子育て世帯に来てほしい、残ってほしいと考えている。
委員	最初の頃の会議で人口減少を食い止めるのはそもそも難しいだろうと、どのように綺麗に畳んでいくかという話を委員が話していたと思うが、そういうところを考えた中で、少し前に「さくげつ」という素敵なお店が桐生にできたのだが、移住者のご家族で、桐生にはいないようなすごく素敵な、おしゃれでハイセンスな、すごく感じの良い人たちで、そういう人たちが桐生を選んで移住して来てくれているように、桐生の素晴らしさが徐々に外に出てきていると思う。綺麗に畳んでいくにしても、魅力的なまちであるということはすごく大事だと思うので、特色を持ったまちというところで、人口減少対策の施策としてターゲットを絞っていくというのは私もすごく賛成で、子育て支援をメインに考えるのは大前提として、全てを網羅したパーフェクトなまちを目指すのは難しいと思うので、この会議の中で徐々に絞っていくのが大事だと思う。
事務局 (企画課長)	今回まさしく皆さんに議論いただいた、まちの魅力をどうするかということは、これから人口減少が続くに当たって、それを食い止める1つの方法である長期的な話であって、その話し合いと同時に、短期的に、今でも続いている人口減少をいかに少なくするか、2つの目線から協議いただきたいと考えている。まちの魅力、長いスパンでどうしたらいいかということも1つ重要であることだと思う。その中でターゲットを決めていくということもすごく必要なことだと思う。ターゲットを決めたものに即効性のある対策をどうするかが対になって、この場で形にできればいいなと考えている。
委員	子育て世代をターゲットにすることに違和感はないが、それが前提で当たり前というのもその通りだと思っていて、「さくげつ」のご家族みたいな、そういう人たちなのではないかと個人的に思っている。子育て世代と言ってしてしまうとすごく広くてターゲットとして全然成り立っていないと思うので、例えばシングルマザーくらいエッジを立たせるというのも1つありだし、私が勝手に考えている桐生の特徴は、渋滞問題があるかもしれないが、まちの店舗がすごく賑やか

	になろうとしているところで、明確にターゲットを置くとしたときに、今まで桐生がやってきた空き店舗対策の延長線上には人口減少対策の突き抜ける点の可能性があるとしたら、そういうところに夫婦で、もしくは家族で、別に子どもがいなくてもいいと思うが、そういう世代の人が自分のお店を桐生だったら構えられるみたいなまちになった時に、何でもかんでも来たら良いというものではないが、そこが1個打ち出せたらもっと施策がシャープになっていくのかなと思う。もっと色々な考えがあると思うが、商い、生業、お店に結びつくような人達が来ると、その人がハブになって、また違う人が住宅に入ってくれるというところがあるのかなと思うので、そこまで踏み込めるといいと思う。
事務局 (企画課長)	ターゲットを絞るという行為は、市の事業は商工農林など色々とあり、行政の分野は広くてそれを絞るということが行政側は非常に難しい。そうするとどこか切り捨てたと思われてしまうこともある。逆にいうと、ワーキンググループを設置した意義はそこにある。行政側がなかなか尖って何かを作っていくということは難しいというところがあるので、ターゲット絞ることにより効果があるのであれば、どんなターゲットにどのようにアクセスしていけば効果があるのか、このようなところは、我々としては皆様のお知恵を拝借したいと考えているところである。
委員	子育てについては、桐生は力を入れて応援しているということは分かったが、全国の中で人口が増えているまちというのは、子育てではなくて出産からだと思う。前々回の時に、3歳児未満の保育料無償化という話はすごくいいなと思ったが、出産してから子育てのために引っ越しするというのはありなのか。私からすると子どもを産む段階で桐生を選んで、桐生に来てから子どもを産むという人が多いのかなという気がするが。
委員	結婚もしてないし、出産も経験していないが、友達の娘さんが小学校の時にずっといじめを受けていて、学校に行けなくなって、なかなか引っ越しは難しかったので、そのまま小学校は卒業した。中学校でエスカレーター式に小学校の子達が上がるが、ほかの学校の子達も入ってきて、友達関係が変わったり、環境が変わったりして、中学校に入ってから問題は学校に行けるようになった。子どもにとって環境が変わるというのは結構大きいことで、ただ、親の立場からすると自分の仕事を変えなければいけないとか、その決断をすることはすごく大変なことだと思う。子どものために環境を変えようとする家族はけっこう多いと思う。小学生に上がってしまったからここで引っ越しするのは可哀想だなとか、その気持ちもすごく分かるが、私も小学校の時に市内だが1回転校しており、転校してからの方がすごく楽しかった。なので、こういう考え方はありなのかなと思う。そこで1歩踏み出せない人たちに、桐生市だったら、こういうことの支援があるよと言えると、背中を押してあげられるきっかけになると思う。
委員	結婚して桐生に住んでいて、最初はアパートに住んでいたりして、子どもができるのと家を建てるとか、私の娘のことでもそうだが、その時に学校はどこが良い

	かなとか、そういうふうに考えるというのを身近で見ている。私は桐生市に住んでいて桐生市に家を建てたが、結婚した時は、実家に入るとかは別だが、勤め先とかそういう場所を選ぶと思うが、子どもが生まれると育てていく場所を考えるというのは、結構多いと思う。
委員	家を造る時に引っ越してくる、その時に場所を選ぶというのはすごくあると思う。家を造るのは、平均すると幼稚園生から小学生に上がるタイミングがすごく多い。小学校に入学するところで学校を決めましょうというところで、エリアを決めるというのは圧倒的に多いので、市がやっている定住、移住の補助金は利用価値が高くとても評判が良いので続けてもらいたいと思っている。私の中で子育てというイメージが小学生低学年までというイメージが今まで強かったので、生まれてから6歳から8歳くらいまでが子育ての一環なのかなと思っていたので、出産をしてから移住するのか、移住してから出産するのか、質問させてもらった。 子育て支援にしても出産支援にしても、前回適切な回答をもらっていなかったと思うが、税収が減れば今やろうとすることはほとんどできなくなる。それが困るから、今人口減少をどうするかということで、ワーキンググループがあって、このワーキンググループは、第六次総合計画まで上がるということで、たぶん進められていると思う。これからの桐生の楽しいまちづくりとか住みやすいまちづくりは当然のことだが、これはかなり長期的な話で、桐生の人口が6万人になるという話もあるが、今の税収が落ちてきたときに我々が出している意見を全て網羅できなかったとしても、どうしてもやりたいというのはあると思うので、それだけはこの人口がいないとできませんよというのが出てくると思う。そうすると、その人口まで何とかするための対策を決めようという話が出てくると思う。第六次総合計画が既にあるわけだから、そのためのワーキンググループだとすると、次回からは掘り下げてポイント的にやっていかないとたぶんダメだと思う。 「7 子育て支援」の中で、シングルマザーについて色々な話を聞かせてもらったが、仕事場というのは必ずあるわけである。仕事場はみんなが頑張ってもできない、企業がやってくれないと。シングルマザーを呼びますよ、その時に勤め先がないとダメだから各企業にお願いしてそういう枠を作ってください、そういう人を募集してくださいというお願いになってくると思う。その時に桐生市も補助金を出せますよという話になってこないと企業の人も耳を傾けてくれないと思う。全部つながってくると思う。人口がある程度落ち着いて、最終的に税収が入ってきて、その税金で色々なところにサポートしながら住みやすいまちというのができてくると思う。
委員長	子育て支援と一口にいても親の支援から始めないといけないようなこともあるので、どこまで子育て支援と言ってしまっているのかというのがあると思う。その中で即効性がある人口減少対策と言われた時に、移住で来てくださる人に絞って、大前提で子育て世帯ということであればそれはそのままでもいいと思う。そこにプラス、何かもうちょっと尖ったところを付けるとなった時に、起業だったり桐生でお店を開きませんかという、そういうところで色を付けて、そういう世帯を助けますよ、案内しますよ、というのがあったら、また違った見せ方だ

	ったり、もっと分かりやすい窓口ができてくるのかなと思う。
事務局 (企画課長)	2060年に人口は約61,000人が目標となっていて、実際にこのままだともっと減ってしまうので、政策によって止めようということである。今回は増やそうということではなくて、減りを減らしましょうということである。今のところある程度移動人口が抑えられている中でも、61,000人にもっていくには今の状況では歯止めがかかっていない。そういった中で、雇用の問題とか、色々な問題というのは前提として総合戦略を作って今議論されている。工業団地をもっと作りましょうとか、雇用を活性化しましょう、商店街を活性化しましょう、という基本的なものは計画を作って進めているところである。総合戦略で人口減少に歯止めをかけるというところは、計画で一通りできているが、その中でもここを特化した方がいいとか、もっとこうした方がいいというところがあればワーキングからお話しいただきたい。そうすると、総合戦略を見ないと載っているかどうか分からないということになってしまうが、尖ったもの、これが必要なのだということが、行政では思いつかないところがあれば政策に結びつけたいと考えている。ここで出た議論というものは政策にすべく検討していくが、今考えているのは、財源の問題もあるので、特に移住とか、定住というところで、特化した政策としてきりゅう暮らし応援事業がある。そのほかにも、特化している事業が全体でこのくらいあって、これくらいまでなら何とか出せるというラインを作っていく。その中に合致していけば事業を推進していくという状態になっている。短期的なもの、長期的なもの、それらを振り分けながら、なるべく多くの事業を実施していきたいと考えている。
委員	移住した人に聞いたかったが、本町通りに補助して新しいお店を出す人を呼び込むのは、活性化につながりすごく良いことだと思う。本町通りでお店を始めます、現況は桐生が好きで来てくれました、しかし20年後人口が6万になってしまうという話を聞いた時に選択するだろうか。将来の桐生を見越して桐生にこれから引っ越して来てまでお店をやろうという、それだけの魅力が桐生にあるのか。
委員	それは何をどう見せるかによると思うが、桐生だけが著しく人口減少していて、ここは外れくじだぞ、だったらたぶん来ないと思うが、基本的にはどこも右肩に下がっていく中で、桐生がその中でどういうふうに感じてもらいたいのか、だから子育て世代だけだとどこもやっているよという話になるので、特化する中で、私が聞いた今までの情報の中では、お店が作りやすいというのが、桐生に帰ってきてすごく面白いと思った。インスタグラムで色々な所をファミリーで回る中で、ファミリーでお店をやったりしていて、桐生に外から来たという人が結構いて、これは1個の特徴になるのではないかと。何か1個打ち出すときに、特徴があると桐生の特徴が分かりやすくてまちの魅力にもつながるのでいいのではないか。これはニワトリタマゴなので、人が来るまちではないとお店を作っはいけないとなるのか、そういうお店が集まるのが先で結果的に人が来るのかでいくと、僕は地元の人たちがちゃんと桐生のことを考えて地元のお店を使うという

	ところがちゃんと成り立つのであれば、先にお店ができるというところで、シャッターが全部開かないとは思いますが、面白いお店があるという中で、ターゲットコンセプトを正しくして発信して、人に来てもらうというところが1、2年のタイムラグがあったとしても、このまちはもう1回動き出せるのではないかというふうに思っている。
委員	そういうふうに言ってもらえるとすごく桐生市民としては嬉しい。 人口は今10万ぐらいで仮に6万になった時に40パーセント減るわけである。ということは商店も40パーセント減るわけである。実際は50パーセントくらい減ってしまうと思う。そうすると、そこまで引っ越してきて耐えてくれて、我慢してくれるのであればすごく良いことだと思うし、今おっしゃったとおりだと思う。私が心配しているのは、桐生のお店も4割減り、人口も減り、楽しくなくなってしまうとしたら心配なので、これに参加させてもらって意見を言わせてもらおうと思っていた。委員の考えを持っているとすると逆に我々がプレッシャーを感じて、来てくれた人に対して何か我々が行動をしなくてははいけないと思う。でないとなんか成り立たないと思う。これは市だけでなく市民全員がそういう気持ちを持って、ウェルカムで、来てください、我々が何とかしましょう、お手伝いしましょうとならないといけないと思う。そういうことを考えながら意見をとりまとめているかないと、商工会議所は商売をやっている人たちの集まりだが、あまり人口減少で自分の会社が動かなくなることが分かっていない。人口が減ると会社の存続というのものもあるが、社員もいなくなるわけだから、製造業だとすると生産ができなくなってしまう。なので、人口減少はすごく大きな問題で、住んでいる人もそうだが、お店も企業も全部影響を受けることなので、今回移住した人がたくさんメンバーとして入っているので、そういうところの本音を聞きたかった。その他で聞こうと思ったが、先に聞いてしまった。委員みたいな考え方の人がいっぱいいれば、どんどんお店を作って起業してもらうのはすごく良いことだから、もっともっと補助金を出した方がいい気がする。
委員長	桐生タイムスとかを見ていると、外から桐生と全く関係ない人が来て、商売を始めたりだとか、あとはUターンしてきた人がいたり、最近結構目に留まってきた。増えてきたというのが実感としてある中で、そういう人たちが実際に起業して店を構えて地域に溶け込んでやっているという実績があるというところが、桐生で開業したい、起業したい、家族で引っ越してくる、ということにもプラスに働くのではないのかなと思う。実際にきりゅう暮らし応援事業で移住支援をやっている、起業支援もやっている、そこを1つ組み合わせたもの、全部組み合わせたのではなくて、見せ方として1つ組み合わせたものを出すのも1つのやり方かなと思った。
委員	新しいものを行政が作るということも限界があるので、ハブとか、移住のコーディネートとしてのワンストップ窓口とかは絶対ないといけないと思う。それを行政がやってはいけないと思うが、その時にお店の開業とかの支援とか、子育てとか、あるものを、上手くパッケージとして見せて、適切な人を捕まえてコーデ

	イネーターが案内できたら、移住に至る率は結構高められるのではないかな。そういった事例が1、2個あると、その人にまた会いに来ようと何回か通っているうちに、委員とかだと思うが、そういう人が既にいるので、他のまちよりも加速度的にそういう人が集まるのではないかな。それで目標達成できるのかというと、それだけでは難しいが、桐生ってそういうまちだよ、どんどん外から来て新しいことやっているねというものが、ブランドではないが、イメージになって外からどんどん来る、移住までしないかもしれないけど、お買い物に来るとか、月に第1土曜に遊びに来るみたいな人がどんどん集まって、洗練されたまちになったらいいなという思いを持っている。
委員長	「8 その他」に入ってしまったているが、そのまま続ける。 土日とか若い子が増えたなと思うことが多い。末広通りとか、1件古着屋さんでできただけで謎の大渋滞で若い子がすごく並んでいる。その子たちがふらふらとまちを歩いており、仲町方面でお店をやっている人とかも、店の前を若い子がいっぱい通るんだよねという話が聞こえてくる。ハンバーガー屋とかおしゃれなお店ができていて、SNSで発信しているので若い子がキャッチして実際に来ている。動き始めているのではないかなという印象がある。そこで何かカンフル剤ではないが、組み合わせて、委員が言っているようなことをやると、うまく回り出すのではないかなという印象は個人的には持っていた。組み合わせということとは可能か。
事務局 (企画課長)	今の時点では具体的なものが出ていないので、可能かどうか判断がつかない。議論を進める中で最終的には具体性をもった政策の提案をいただきたいと思っている。その中で、作っていく中で可能か不可能かがはっきりしてくると思う。話し合ってこういう政策を市でやりましょう、だから人口が増えるのか、市民レベルでも運動というか波というか、そういう気運が盛り上がらないと到底無理なのだろうと思う。会議をきっかけにみんなが人口をどうするか、市民の皆様に行きわたるか、そのことについてどう歯止めをかけるか、具体的な運動なりに結びついてくれたらいいなと考えている。
委員長	施策をここで作るが、作ったものはできるのか。
事務局 (企画課長)	作っていく段階でこういうところをくっつけよう、こうしたらどう、ああしたらどう、具体的に見えてくる段階で、それが可能かどうか分かるということである。何かと何かをくっつけたらいいだろうという話で、基本できればやればいいと思うが、何せものがはっきりしないので、今のこの時点で絶対にできますとも言えない。話し合いでこういうことと、こういうことを上手くくっつけたらどうだということが出てくれば、その時点で判断がついてくると思う。
委員長	こっちはこっちで進めてしまっていていいわけか。 子育てから移住支援、起業支援という方向で進んでおり、その他に色々入っている部分があるが、その他で5つ項目が上がっている。この中でご意見、もっ

	と深めたいというところがあればご発言をお願いしたい。④は色々頑張ってやっ てくださっていると思うし、関係人口は観光の分野でこのことに関して出てきた かなと思う。Ｕターンするきっかけを作るというのは、就職というのは今の段階 で難しいのかもしれないが、お店が作りやすく、自分の力でトライできる場所と 機会が桐生にはあるよということのアピールや支援というところで、Ｕターンす るきっかけづくりが１つできるのではないかなと思う。 特に女性の減少が目立っているというのは確かにそうだが、女性に特化してし まっても変なふうになるような気がするので、私は子育て世代やこれから桐生で 家族を作っていこうというふうに思っている人たちに向けての施策がいいので はないかと思うが、いかがか。
委員	その他の②に関して、確か委員が発言してくれた意見だったと思うが、自分が Ｕターンで戻ってきたので、まちを面白い大人と話したり一緒に活動したりす る経験というのは、私はずっと桐生祭りを子どもの頃から小学校１年生からず っと参加してきていて、そこで同じ学校ではない子たち、違う学校の同級生もそ うだが上も下も、それこそ大人も、色々な人たちとの関わりを持ってこられた。 その中で桐生の歴史の話を聞いたりとか、酔っぱらったおじさんに桐生のまちの ことだったりとか、そこのお家がやっている繊維産業の話とかを聞くともなくず っと聞かされて育ってきた。私は祇園祭りの方なので、ずっとお囃子をやってい て、私は高校を卒業して桐生を出てしまったが、毎年お祭りに出たくて帰ってき ていた。それは大人になってもずっと続いていて、東京にいる時もそうだし、京 都にもしばらくいたが、京都にいた時も日帰りでお祭りの中日に日帰りで帰っ てくるとかしていた。それはすごく楽しいからというのもあるし、そこでできた仲 間意識がものすごく出たりとかするし、周りの大人たちにも子どもの頃から皆に 育ててもらったみたいなどころもあったので、東京だと子育てをしている人たち が、所属の保育園とか、小学校とか、そういうところでの行事はあると思うが、 そういう所から離れた場所で何か参加するという機会は少ないのかなと思って いて、桐生では学校とかの枠を超えて関われる場所がけっこうあると思うので、 地元で愛着を持ってもらうというのはすごく大きなことかなと思う。ミニきりゅ うはすごく良かったと思っていて、学校の枠とかを超えて自分たちもここに参加 しているのだという気持ちを持って取り組めることが、市として何かできたりし たらいいと思う。
委員長	私もニュースとかで見たが、地域でのお祭りで子どもたちが地域の人たちと一 緒に活動して、お店を手伝ったりとかしている子たちはほとんど戻ってくる。知 っているおじちゃん、おばちゃんがいっぱいいて、やっぱり愛着、人と人とのつ ながりが大事なのだろうと、そこがＵターンするきっかけというのが大きい。 そういうことを行政がどうのってというのはなかなか難しいと思う。ミニきりゅ うとか、そういう取組をしているところにサポートをすとか、コロナでできなく なっているが、各公民館で公民館祭りを地元の人たちで開いてその中で 子どもたちがお手伝いすとか、今はできていないけれど、そういうことが大事 なのかなと思う。そこに市のサポートを入れてもらう、大きな施策にはならない

	けれど大事なことだと思う。 「8 その他」の部分で何かご意見があれば、大丈夫か。
委員	その他のその他ということによろしいか。次回でいいがどうしても議論してもらいたいことがある。1つは地域通貨を進めてもらいたいと思っている。 もう1つ議論してもらいたいのが、今が第六次総合計画で、次に第七次総合計画になると思う。そのためのワーキンググループだと思うが、市の人を前にして言うのは申し訳ないが、今までの総合計画は結局成果が出なかったもので、こういう状況になっていると思う。新生総合計画から第六次総合計画に変わってきた時に、数字が変わっただけで、中身がほぼ変わっていない。それを作った人の悪口を言うつもりはないが、基本的に市で作るものは無理だと思っている。第六次総合計画から第七次総合計画は、それはそれで進めてもらって構わないが、主軸になるものとは別で、民間のコンサルティング会社を入れて、桐生の今までの何が悪くてこうなってしまったのか、原因が分からないから人口が減っていると思う。例えば競艇がなくなって財源がなくなったからとか、それは分からないが、そういうことを突き詰めていかないと、元が分からないといくらやっても変わらないと思う。それを市でやろうとすると先輩たちがやっていることだから、色々と問題が出てくる。民間に委託してしまって、もう一方向からの見た桐生というのを作っていく必要があると思う。それを一緒に揉みながら新しいものを作る方が具体的にできると思う。できれば次回で議論してもらえるとありがたい。
事務局 (企画課長)	今回のワーキンググループについては、総合計画の策定とは全く別で、過疎地域に認定されたことから、急いで人口減少対策をしなくてはならない、食い止めなければならないと、計画と一旦切り離して考えている。過疎計画は今年からスタートするが、総合計画、総合計画の下に人口減少に特化した総合戦略がある。これはこれで粛々と動いていて、雇用対策だったり子育て対策だったり、ある程度網羅している計画なので、皆様から色々な意見が出る中で、大きく外れるということはないと思うので、計画の修正は特に必要なく、ここで議論されたことを具体的な政策を落とし込んでそれを実行しよう、計画に盛り込むというより、ここに出てきた政策を事業として実行したいと考えている。次期計画とこの話合いは必ずしも現時点では直接リンクしないものと考えてもらいたい。 また、地域通貨の件については、現在市の中でも色々と検討しているところがあるので、ご理解いただきたい。
委員	検討しているという話はよく出てくるが、具体的にいつになるかという具体的な数字が出てこない。そういうのはタイムリーにやっていかないとなかなか進まないと思う。検討するとなると検討した結果駄目になるというのもあり得るので、できればワーキンググループの中できちんと議論して、上げてもらいたいと思ったので提案させてもらった。
委員長	地域通貨の件については次回というところも含めて事務局から話をしてもらいたいと思う。

	今日の「8 その他」まで皆さんよろしいか。 (意見なし) 「8 その他」の意見まで一通り具体的な意見をいただいたので、次回以降は今までの議論を踏まえて事務局から必要な資料提供を行いながら、次の段階、確実に絞っていきたいと思う。 それでは、本日の議事が全て終わったので、議長の任を解かせていただきたいと思います。
--	---

4 その他

- ・事務局から、次回の開催日程及び次回以降の進め方について事務連絡。

5 閉 会 [終了：午後3時50分]